

により、全国拠点病院の看護師が活用可能な女性 HIV/AIDS 患者の療養支援ガイド作成に活かす基礎資料を得ることを目的とする。

## B. 研究方法

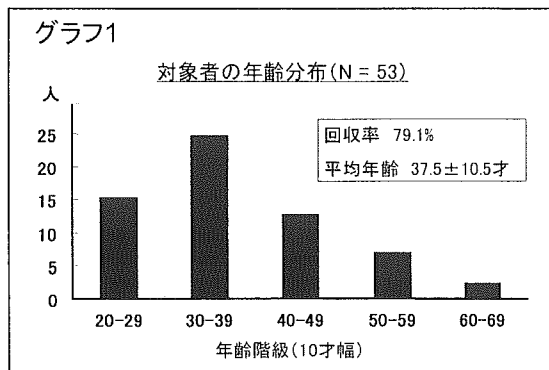
平成 17 年 7 月 1 日～平成 17 年 8 月 31 日までの 2 ヶ月間にエイズ治療・研究開発センターと HIV/AIDS ブロック拠点病院に通院中の女性 HIV/AIDS 患者を対象に「女性 HIV/AIDS 患者における療養生活状況のアンケート調査票」を配布しアンケート調査を実施した。アンケート配布にあたっては、被検者に対して、研究の目的・研究の背景・研究の方法等を文書および口頭で十分に説明し、同意書は渡さずにアンケート回収を返信郵送することで同意を得ることとした。また、アンケート用紙は自記式・無記名であり、回答者を特定する質問や回答の内容が含まれないよう作成し、倫理面への配慮を行った。

## C. 研究結果

### 1) 対象者の特性

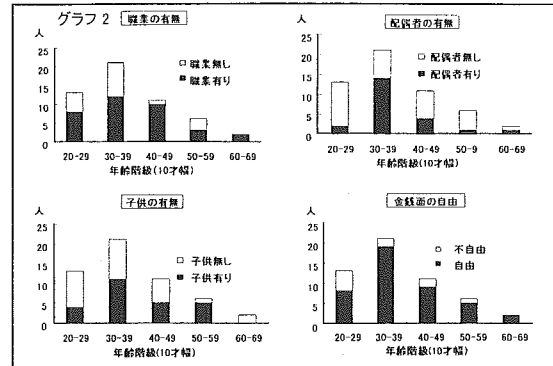
調査票の配布は 67 人に行い、そのうち回収ができたのは 53 人で回収率は 79.1%であった。回答の得られた 53 人の平均年齢は、 $37.5 \pm 10.5$  才で、分布はグラフ 1 のとおりであった。

＜グラフ 1：対象者の年齢分布＞



対象者の属性として、職業・配偶者・子供・金銭の自由の有無について、年齢階級別に集計した (グラフ 2)。

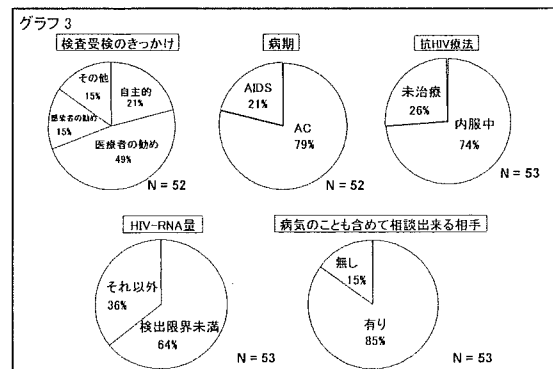
＜グラフ 2：対象者の属性＞



20 代～40 代では職業を持っている割合が多く、全年齢階級で金銭使用が自由である対象者が多数を占めた。配偶者と子供の有無について、30 代は配偶者ありと回答した対象者が半数を超えたものの、他の年齢階級では独身者が半数以上であった。30 代と 40 代は子供のいる対象者は約半数で、50 代で子供がいる対象者は 8 割以上であった。

次に HIV 感染症に関する項目として、HIV 抗体検査受検のきっかけ・病期・抗 HIV 療法の有無・HIV-RNA 量・病気のことを含めて相談できる相手の有無について集計した (グラフ 3)。

＜グラフ 3：HIV 感染症に関連する項目＞



HIV 抗体検査の動機で最も多かったのは医療者のすすめで約半数を占めていた。病期は 8 割が AC で、抗 HIV 薬内服中は 7 割以上、HIV-RNA 量が検出限界未満の対象者は 6 割以上であった。また、8 割以上の対象者が、病気のことも含めて相談できる相手がいると回答していた。

2) 結果 1

対象者の性行動に関して、「感染判明後の性交渉の有無」について性交渉ありと回答したのは、53人中32人であった。この32人のうち、「複数同時の性交渉相手の有無」について有りと回答したのは2人のみで、9割以上の対象者は、感染判明後は特定の相手のみと回答していた。また、「性交渉相手に対するHIV感染の打ち明け状況」について「打ち明けた」は9割で、「打ち明けていない」は1人のみで、その他の3人は相手によると回答していた。(表1)

<表1：性行動に関する項目>

①感染判明後の性交渉のあり(N = 32)		
②複数同時の性交渉相手の有無(N = 32)		
	感染判明前	感染判明後
あり	11	2
なし	21	30
③性交渉相手に対するHIV感染の打ち明け状況 (N = 32)		
病名告白		
打ち明けた		28
打ち明けていない		1
その他		3

感染判明後に性交渉ありと答えた対象者32人について、感染判明前と後について「コンドーム使用の有無」を調べたところ、感染判明前は全ての対象者が「時々使用する・使用せず」であったが、感染判明後は「いつも使用する」と回答したのが24人で「時々使用する・使用せず」と回答したのが8人であった。そこで、「時々使用する・使用せず」と回答した8人の理由を抽出したところ、性交渉相手からの拒否が4人、パートナーが感染者である1人、無回答3人であった。(表2)

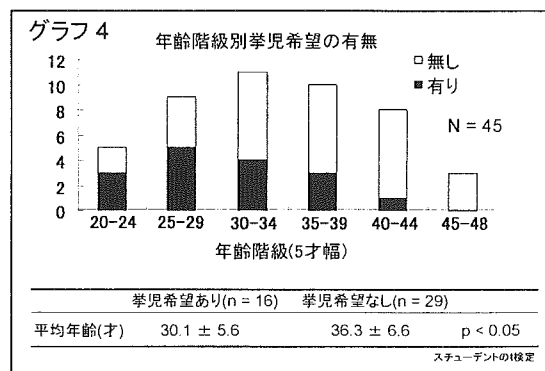
<表2：コンドームの使用について>

①コンドーム使用の有無 (N = 32)		
	感染判明前	感染判明後
いつも使用する	0	24
時々使用・使用せず	32	8
②感染判明後にコンドームを「時々使用・使用しなかった」と答えた行動の理由 (N = 8)		
理由		
相手の拒否		4
パートナーが感染者		1
無回答		3

3) 結果 2

次に生殖年齢にある45人を対象に年齢階級の挙児希望の有無を調べたところ、有りと回答したのは、20代は14人中8人(57%)、30代は21人中7人(33%)、40代は11人中1人(9%)であった。また、挙児希望の「あり群」と「なし群」では、「あり群」の平均年齢が有意に低い結果(P<0.05)となった。(グラフ4)

<グラフ4：年齢階級別挙児希望の有無>



次にグラフ3で示した「HIV感染症に関連する項目」の中のHIV-RNA量と挙児希望の有無の関連を分析したところ、HIV-RNA量が検出限界未満であることは、挙児希望と有意な関連傾向であると示唆された。(表3)

<表3：挙児希望の関連要因>

挙児希望の有無とHIV-RNA量の関連 (N = 45)			
	挙児希望あり	挙児希望なし	p値
HIV-RNA量 検出限界未満	13	14	0.055
HIV-RNA量 検出	3	15	
フィッシャーの直接確率検定			
↓			
挙児希望の有無とウイルス検出に有意な関連の傾向あり			

生殖年齢にある45人の対象者の中で、胎児催奇形性の可能性のあるEFVを内服していた対象者は6人であった。この6人について、EFVの催奇形性の知識の有無を調べたところ、挙児希望の有無に関わらず、5人の対象者は知っていると回答し、知らないと回答した対象者は、挙児希望の無い1人のみであった。(表4)

<表 4 : EFV 服用について>

表4		
EFVを含む抗HIV薬内服中:6人(N = 45)		
↓		
妊娠希望時避けるべき薬剤があること		
	知っている	知らない
挙児希望あり	1	0
挙児希望なし	4	1

#### D. 考察

本調査の対象者は、AIDS 未発症者が多く、病状コントロールが良好であると考えられた。また9割以上が病気を含めて相談できる相手がいること、多くは金銭面が自由であることから、安定した療養生活を得られている集団であると考えられた。

性行動については、性感染症の予防行動の変容が見られている対象者が多数であることから、ほとんどの対象者が病気について正しく理解していることが考えられる。しかし予防行動が徹底されていない対象者から得られた、相手の拒否、相手が感染者、相手に影響されることがある、という回答から、性交渉相手に対する積極的な指導の必要性、また、耐性ウイルス獲得を防ぐための支援の必要性が示唆された。

また本調査の対象者の挙児希望については、ウイルス量の検出と挙児希望に有意な関連傾向があったことから、病状コントロールは挙児希望に影響する可能性があることが考えられた。今回の調査では年齢と病状以外の「挙児希望に影響する要因」は分からなかったが、今後対象者の挙児に関する不安や障害に関する詳しい調査をすることで、挙児希望者に対する指導・相談の支援体制を構築することができるのではないかと考えられた。

#### E. 結論

生殖年齢にある女性 HIV/AIDS 患者には、挙児希望がごく普通にあるということを再確認

した調査であった。パートナーへの感染防御と挙児希望の相反する性行動の間で苦慮する女性 HIV/AIDS 患者に対する支援体制と具体的な支援方法について提示することが急務である。

#### 参考文献

- 1) The International Perinatal HIV Group: N Eng J Med, 340: 977-987, 1999.
- 2) AIDS epidemic update, December (2004), UNAIDS/WHO-2004.
- 3) 大金美和:「女性感染者が抱える性行動と挙児希望に関する問題」, 第18回日本エイズ学会シンポジウム, 静岡, 2004年12月.
- 4) 塚原優己、谷口晴記、源河いくみ、服部里佳、大金美和:「HIV 母子感染予防対策マニュアル第3版」, 分担研究: わが国独自の HIV 母子感染予防対策マニュアル作成・改訂に関わる検討班, 平成15年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策事業.
- 5) 村上未知子ら:「女性 HIV 感染者のかかえる多様な問題の把握とその援助に関する研究」, (財) 東京女性財団民間活動支援助成対象研究, 2000年度.
- 6) 源河いくみ:「HIV 感染症の現状と母子感染を防ぐガイドライン」, 助産雑誌, Vol. 57 No. 12 2003年12月.
- 7) 大金美和ら:「妊娠と同時に HIV 感染が判明したケースの支援から」, 助産雑誌, Vol. 57 No. 12 2003年12月.

#### G. 研究業績

##### 論文発表

- 1) 平成17年度日本産婦人科医会研修委員会・学術研修部 (塚原優己) 編: 日本産婦人科医会研修ノート No. 74 妊娠初期の超音波検査: 日本産婦人科医会 2005年12月
- 2) 平成17年度日本産婦人科医会研修委員会・学術研修部 (塚原優己) 編: 日本産

- 婦人科医会研修ノート No. 75 痛みの診断と治療：日本産婦人科医会 2006年3月
- 3) 塚原優己、谷口晴記、源河いくみ、山田里佳、大金美和、嶋貴子、川戸美由紀、稲葉憲之，平成17年度厚生労働省科学研究費補助金エイズ対策研究事業「HIV感染妊婦の早期発見と治療および母子感染予防に関する臨床的・疫学的研究」班：女性のためのQ&A—あなたと赤ちゃんのためにできること—：2005年12月発行
  - 4) 源河いくみ、吉田邦仁子、岡 慎一、狩野繁之編 HIV陽性症例に合併した赤痢アメーバ症の検討 エイズに合併する寄生虫症 フリープレス 2005.
  - 5) 山田里佳：妊婦HIVスクリーニング検査における偽陽性の発生率とその対応，日産婦医会報第57巻第8号，10-11，2005
  - 6) 塚原優己、矢永由里子、稲葉憲之、喜多恒和、稲葉淳一、山田里佳、蓮尾泰之、源河いくみ、外川正生、大金美和、川戸美由紀：HIVと妊娠をめぐる諸問題，日本エイズ学会誌、第7巻第2号，2005.
  - 7) 種元智洋、塚原優己、北川道弘：周産期感染症ハンドブック V. 母子感染総論 1. 母体徴候；産婦人科の実際—印刷中
  - 8) 福田友洋、服部里佳、箕浦茂樹、山口俊也、古澤祐紀、伊藤めぐむ、堀川隆、小早川あかり、榎谷法生、五味淵秀人、中村幸夫：妊娠中に巨大子宮筋腫を核出した2症例. 日産婦東京地方部会会誌、392-395, 2004(9).
  - 9) 増田剛太、木村哲、森澤雄司、岩本愛吉、岡慎一、菊池嘉、安岡彰、立川夏夫、源河いくみ、照屋勝治、福武勝幸、花房秀次、合地研吾、後藤守孝、石ヶ坪良明、萩原惠理、伊藤彰、内海眞、井上徹也、米村佳子、白坂琢磨、上平朝子、古西満、坂上賀洋、吉田英樹、増谷衛：Nevirapine(BIRG567)国内における臨床試験. ANTIBIOTICS & CHEMOTHRAPY vol. 20, No. 3, 113-128(2004)
  - 10) 源河いくみ：救急に関連する新興・再興感染症 その他の感染症. Emergency nursing vol. 17 no. 9, 854-857(2004)
  - 11) 塚原優己、和田裕一、吉野直人、喜多恒和、稲葉憲之、戸谷良造：わが国における妊婦 HIV 抗体検査の実施状況 依然続く地域較差：産婦人科の実際(0558-4728) 53巻10号 Page1521-1528(2004. 10)
  - 12) 伊藤めぐむ、和知敏樹、林聡、左合治彦、木村香織、望月昭彦、櫻井美樹、山本阿紀子、鈴木泉、渡辺紀子、和田誠司、渡邊典芳、尾見裕子、牧野郁美、塚原優己、久保隆彦、北川道弘、名取道也：胎児治療を施行した胎児卵巣嚢腫の1例：日本産科婦人科学会東京地方部会会誌(0288-5751) 53巻2号 Page234-237(2004. 06)
  - 13) 和田誠司、左合治彦、松本隆万、川口里恵、杉本公平、尾見裕子、林聡、小澤伸晃、藤井絵里子、塚原優己、久保隆彦、北川道弘、田中忠夫、名取道也：妊娠中期胎児超音波スクリーニング検査による胎児異常検出率：日本周産期・新生児医学会雑誌(1348-964X) 40巻1号 Page24-27(2004. 04)
  - 14) 塚原優己、佐々木繁、是澤光彦：感染症性感染症の最近の動向：日本産科婦人科学会雑誌(0300-9165) 56巻9号 PageN-517-N-520(2004. 09)

学会発表

- 1) Yamada R, Shima T, Imaia M, Genka I, Ogane M, kawato M, Taniguchi H, Tsukahara Y, Inaba N : The false positive rate of antenatal HIV screening in Japan, 7<sup>th</sup> International Congress on AIDS in

- Asia and the Pacific, Kobe, 2005.7.1
- 2) Kita T, Wada Y, Tsukahara Y, Totani R, Togawa M, Taniguchi H, Sakumoto K, Yoshino N, Minoura S, Inaba N: Obstetrical, Immunological and Virological Study on HIV Infected Pregnant Women and Mother-To-Child Transmission. 7<sup>th</sup> International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, Kobe, 2005.7.1
  - 3) Togawa M, Kasai Ta, Ohba S, Kunikata T, Ozaki Y, Takayama N, Imura S, Tsukahara Y, Kita T, Totani R, Inaba N: Retrospective Study Regarding the Prognosis of Children Born from HIV-1 Infected Women in Japan. 7<sup>th</sup> International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, Kobe, 2005.7.1
  - 4) Hayashi K, Wada Y, Yoshino N, Hasuo Y, Akagi K, Takahashi S, Suzuki T, Kita T, Tsukahara Y, Inaba N: Clinical Evaluation of Maternal HIV Testing Rate for Prevention of MTCT in Japan. 7<sup>th</sup> International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, Kobe, 2005.7.1
  - 5) 山田里佳, 塚原優己, 谷口晴記, 和田裕一, 喜多恒和, 戸谷良造, 稲葉憲之: 妊婦 HIV スクリーニング検査偽陽性に関する検討, 第 57 回日本産科婦人科学会総会 (2004.4. 京都)
  - 6) 大金美和, 山田由紀, 石垣今日子, 畑中祐子, 武田謙治, 池田和子, 島田恵, 山田由美子, 野口明子, 谷口晴記, 山田里佳, 嶋貴子, 川戸美由紀, 源河いくみ, 岡慎一, 木村哲, 塚原優己, 稲葉憲之: 女性患者の療養支援に関する基礎調査; 第19回日本エイズ学会, 2005/11/1熊本
  - 7) 嶋貴子, 今井光信, 山田里佳, 谷口晴記, 源河いくみ, 大金美和, 川戸美由紀, 塚原優己, 稲葉憲之: 妊婦HIVスクリーニング検査の偽陽性に関する前方視的検討. 第19回日本エイズ学会学術集会・総会 (平成17年12月1-3日、熊本).
  - 8) 嶋貴子, 今井光信, 山田里佳, 谷口晴記, 源河いくみ, 大金美和, 川戸美由紀, 塚原優己, 稲葉憲之: 妊婦集団におけるHIVスクリーニング検査の偽陽性に関する検討 (前方視的調査). 日本性感染症学会第18回学術大会 (平成17年12月3-4日、北九州).
  - 9) 源河いくみ: シンポジウム<原虫症の化学療法<の進歩>赤痢アメーバ症; 第 53 回日本化学療法学会総会 東京 2005.
  - 10) 源河いくみ, 阿部泰尚, 恩田順子, 上田晃弘, 横田恭子, 矢崎博久, 田沼順子, 本田美和子, 瀧永博之, 照屋勝治, 立川夏夫, 菊池嘉, 岡慎一, 木村哲: Atazanavirを含む抗HIV療法の1年間の治療成績; 第19回日本エイズ学会 熊本 2005.
  - 11) 鈴木啓太郎, 渡場孝弥, 井原規公, 小出直哉, 和知敏樹, 新家秀, 林聡, 塚原優己, 左合治彦, 久保隆彦, 北川道弘, 名取道也: Photocrosslinkable chitosan を用いた羊膜癒合に関する基礎的検討. 第 57 回日本産科婦人科学会総会, 2005.4.2 (京都).
  - 12) 蓮尾泰之, 和田裕一, 林公一, 稲葉淳一, 明城光三, 喜多恒和, 塚原優己, 戸谷良造, 稲葉憲之: 本邦における妊婦HIVスクリーニング検査の現状及び普及のための検討. 第57回日本産科婦人科学会総会, 2005.4.2 (京都).
  - 13) 塚原優己, 山田里佳, 谷口晴記, 和田裕一, 喜多恒和, 戸谷良造, 稲葉憲之: 外挿法を用いたわが国のHIV感染妊娠の将来予測. 第57回日本産科婦人科学会総会, 2005.4.2 (京都).
  - 14) 谷口晴記, 塚原優己, 山田里佳, 和田裕一, 喜多恒和, 戸谷良造, 稲葉憲之: 実用性の向上を目指した「HIV母子感染予防対策マニュアル」の改訂. 第57回日本産科婦人科

- 学会総会、2005. 4. 2 (京都).
- 15) 林公一, 喜多恒和, 塚原優己, 和田裕一, 谷口晴記, 蓮尾泰之, 戸谷良造, 稲葉憲之: 本邦における HIV 感染妊娠出産例に対する HIV 母子感染予防未実施妊婦の臨床的背景に関する検討. 第 57 回日本産科婦人科学会総会、2005. 4. 2 (京都).
  - 16) 喜多恒和, 佐久本薫, 箕浦茂樹, 阿部史朗, 早川智, 高野政志, 松田秀雄, 和田裕一, 塚原優己, 戸谷良造, 菊池義公, 稲葉憲之: 本邦における HIV 感染妊婦の発生動向と母子感染予防対策の評価. 第 57 回日本産科婦人科学会総会、2005. 4. 2 (京都).
  - 17) 山田里佳, 嶋貴子, 今井光信, 川戸美由紀, 大金美和, 源河いくみ, 谷口晴記, 喜多恒和, 和田裕一, 外川正生, 戸谷良造, 塚原優己, 稲葉憲之: 妊婦 HIV スクリーニング検査で多発する偽陽性. 第 22 回日本産科婦人科感染症研究会、2005. 5. 28 (東京)
  - 18) 和田裕一, 塚原優己, 喜多恒和, 外川正生, 戸谷良造, 稲葉淳一, 林公一, 明城光三, 蓮尾泰之, 谷口晴記, 吉野直人, 稲葉憲之: わが国における妊婦 HIV スクリーニング検査の実施状況. 第 22 回日本産科婦人科感染症研究会、2005. 5. 28 (東京)
  - 19) 松田秀雄, 喜多恒和, 北村勝彦, 阿部史朗, 工藤一弥, 小早川あかり, 佐久本薫, 高野政志, 早川智, 箕浦茂樹, 吉野直人, 高橋尚子, 塚原優己, 和田裕一, 外川正生, 戸谷良造, 稲葉憲之: わが国における HIV 感染妊娠と HIV 母子感染の実態調査. 第 22 回日本産科婦人科感染症研究会、2005. 5. 28 (東京)
  - 20) 林公一, 和田裕一, 塚原優己, 蓮尾泰之, 国方徹也, 葛西健郎, 箕浦茂樹, 北村勝彦, 井村総一, 稲葉憲之: HIV 母子感染予防における前任婦スクリーニングの必要性について. 第 41 回日本周産期・新生児医学会、2005. 7. 10 (福岡)
  - 21) 松田秀雄, 塚原優己, 和田裕一, 国方徹也, 蓮尾泰之, 箕浦茂樹, 葛西健郎, 北村勝彦, 稲葉憲之: わが国における HIV 感染妊娠と HIV 母子感染の実態調査. 第 41 回日本周産期・新生児医学会、2005. 7. 10 (福岡)
  - 22) 塚原優己, 和田裕一, 松田秀雄, 国方徹也, 蓮尾泰之, 箕浦茂樹, 葛西健郎, 北村勝彦, 林公一, 稲葉憲之: 妊娠 22 週未満に胎児異常を診断された症例の予後: 第 41 回日本周産期・新生児医学会、2005. 7. 10 (福岡)
  - 23) 国方徹也, 箕浦茂樹, 井村総一, 葛西健郎, 和田裕一, 蓮尾泰之, 塚原優己, 北村勝彦, 尾崎由和, 稲葉憲之: わが国における HIV 母子感染の現状(3) 全国小児科施設に対する調査成績: 第 41 回日本周産期・新生児医学会、2005. 7. 10 (福岡)
  - 24) 塚原優己, 和田裕一, 箕浦茂樹, 蓮尾泰之, 国方徹也, 葛西健郎, 井村総一, 尾崎由和, 北村勝彦, 稲葉憲之: わが国における妊婦 HIV スクリーニング検査偽陽性の発生状況とその対策. 第 41 回日本周産期・新生児医学会、2005. 7. 10 (福岡)
  - 25) 国方徹也, 井村総一, 葛西健郎, 尾崎由和, 松田秀雄, 和田裕一, 塚原優己, 稲葉憲之: わが国での HIV 母子感染予防の現状—非感染例における追跡調査について—. 第 41 回日本周産期・新生児医学会、2005. 7. 10 (福岡)
  - 26) 葛西健郎, 井村総一, 国方徹也, 尾崎由和, 和田裕一, 塚原優己, 松田秀雄, 北村勝彦, 稲葉憲之: わが国における HIV 母子感染の現状—全国小児科施設に対する調査成績—. 第 41 回日本周産期・新生児医学会、2005. 7. 10 (福岡)
  - 27) 鈴木啓太郎, 新家秀, 林聡, 塚原優己, 中村知夫, 伊藤裕司, 左合治彦, 久保隆彦, 北川道弘, 名取道也: 当センターにおける双胎妊娠の検討. 第 41 回日本周産期・新

生児医学会、2005.7.10 (福岡)

- 28) 渡場孝弥、細川真一、林聡、左合治彦、中村知夫、伊藤裕司、塚原優己、久保隆彦、北川道弘、名取道也：Thanatophoric dysplasia における胎児 MRI を用いた肺低形成の診断。第 41 回日本周産期・新生児医学会、2005.7.10 (福岡)
- 29) 塚原優己：シンポジウム①ウイルスと周産期：わが国における HIV 感染妊娠—その現状と問題点—。第 46 回日本母性衛生学会、2005.10.6 (宮崎)
- 30) 大場 悟、外川正生、葛西健郎、国方徹也、吉野直人、井村総一、戸谷良造、喜多恒和、和田裕一、塚原優己、稲葉憲之：わが国における HIV 母子感染の現状—小児科施設への全国アンケート調査から—。第 19 回日本エイズ学会、2005.12.1 (熊本)
- 31) 喜多恒和、吉野直人、和田裕一、外川正生、塚原優己、箕浦茂樹、谷口晴記、戸谷良造、稲葉憲之：本邦における HIV 感染妊娠の発生と母子感染予防対策の現状。第 19 回日本エイズ学会、2005.12.1 (熊本)

#### 講演

- 1) 大金美和：HIV/AIDS Case Study—初級・中級・上級編—初診時の対応（コーディネーターナース編）。平成 17 年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策事業「免疫賦活を応用した HIV 感染症の治療開発に関する研究」班（主任研究者：岡慎一）、(2005/8/1. 名古屋)
- 2) 大金美和：HIV/AIDS Case Study—初級・中級・上級編—初診時の対応（コーディネ

ーターナース編）。平成 17 年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策事業「免疫賦活を応用した HIV 感染症の治療開発に関する研究」班（主任研究者：岡慎一）、(2005/10/15. 那覇)

- 3) 大金美和：HIV 感染妊婦の看護研修—女性患者の看護支援—。ACC(エイズ治療・研究開発センター)研修 (2006/1/1)
- 4) 和田裕一、喜多恒和、稲葉憲之、谷口晴記、塚原優己、他：わが国における HIV 感染症の現状～性感染症から母子感染まで～。エイズ予防財団主催平成 17 年度研究成果発表会（札幌市、下関市、名護市）

#### マスコミ報道

- 1) 産経新聞 2005 年 4 月 4 日：妊婦へのエイズ 1 次検査 確度は 4-10%
- 2) 東京新聞 2005 年 4 月 4 日：HIV 1 次検査「陽性」妊婦 9 割以上陰性
- 3) 京都新聞 2005 年 4 月 4 日：妊婦の HIV 検査 1 次は確度 10%
- 4) Medical Tribune infection control today 2005 年 8 月 11 日：HIV 母子感染の現状と課題
- 5) Medical Tribune 2006 年 1 月 12 日：～HIV スクリーニング検査～追加検査や確認検査で偽陽性除外を

正常妊婦およびHIV感染母児における $\alpha$ -defensin発現の推移について

主任研究者：	稲葉 憲之	獨協医科大学病院 病院長
研究協力者：	岡崎 隆行	獨協医科大学 産科婦人科学教室 大学院生
	太田 順子	獨協医科大学 産科婦人科学教室 助教授
	吉田 敦	獨協医科大学 臨床検査医学 講師
	吉田 穂波	ウイミンズ・ウェルネス銀座クリニック 医師
	大島 教子	獨協医科大学 産科婦人科学教室 講師
	西川 正能	獨協医科大学 産科婦人科学教室 助手
	庄田亜紀子	獨協医科大学 産科婦人科学教室 助手
	池田 綾子	獨協医科大学 産科婦人科学教室 大学院生
	深澤 一雄	獨協医科大学 産科婦人科学教室 教授
	渡辺 博	獨協医科大学 産科婦人科学教室 教授
	鄭 建華	ハルビン医科大学 産婦人科 教授
	熊 曙康	大連市婦産医院 助教授
	王 世軍	北京大学人民病院 産婦人科 助教授
	Mugerwa Kida Yvonne	Makerere Medical School
	Deshratn Asthana	University of Miami School of Medicine

研究要旨

抗菌ペプチド $\alpha$ -defensin 1-3 は、in vitro で抗HIV作用を有することがわかっているが、生理的状态ではその発現量が少ないため、妊娠・分娩において抗HIV作用が発揮されるのに十分な血中濃度が確認されれば、それがHIV母子感染防御機構に関与している可能性がある。そこで、 $\alpha$ -defensin 1-3 のHIV母児感染予防における意義を検討するため、母体血中 $\alpha$ -defensin 1-3濃度と好中球表面マーカー発現状況との関連を検討し、またHIV陽性妊婦と陰性妊婦で母体血／臍帯血 $\alpha$ -defensin 1-3濃度比を比較検討した。

A) 背景

好中球アズール顆粒に貯蔵されている抗菌ペプチド $\alpha$ -defensin 1-3 は、in vitro で抗HIV作用を有することがわかっている。しかし、生理的状态ではその発現量が少ないため、生体内での効果には消極的な意見が多い。一方、妊娠や陣痛発来により好中球が活性化され、脱顆粒化が促進されて $\alpha$ -defensin 1-3の放出が増加するものと考えられるが、正常妊娠産褥期における血中 $\alpha$ -defensin 1-3濃度に関する報告はまだない。もしも妊娠・分娩において抗HIV作用が発揮されるのに十分な血中濃度が確認されれば、 $\alpha$ -defensin 1-3がHIV母子感染防御機構に関与し

ている可能性がある。

B) 研究目的

Alpha-defensin 1-3のHIV母児感染予防における意義を検討するため、母体血中 $\alpha$ -defensin 1-3濃度と好中球表面マーカー発現状況との関連を検討し、またHIV陽性妊婦と陰性妊婦で母体血／臍帯血 $\alpha$ -defensin 1-3濃度比を比較検討した。

C) 研究方法

- ① 正常妊婦および褥婦の単離好中球において、表面のCD11b、Toll-like receptor-4 (TLR-4)の発現強度をフローサイトメトリーにて測定



し、血中 $\alpha$ -defensin 1-3 濃度との関連を検討する。(CD11b は好中球活性化の指標、TLR-4 は好中球のアポトーシス遅延に関与)

- ② HIV 陽性妊婦の分娩時母体血- 臍帯血ペア検体において $\alpha$ -defensin 1-3 濃度を sandwich ELISA kit により測定し、HIV 陰性妊婦の結果と比較して母児感染防御機構への $\alpha$ -defensin 1-3 の関与を考察する。

(倫理面への配慮)

検体採取にあたっては学内倫理委員会の指針に基づく同意書を作成し、インフォームドコンセントを得た。またデータの管理においては、個人情報保護法に基づいて細心の注意をはらった。

#### D) 研究結果

(1) 母体血中 $\alpha$ -defensin 1-3 濃度と好中球表面マーカー発現状況との関連

図1に示すように、CD11b、TLR-4とも陣発群と有意に高値を示した。産褥3日目では、CD11b高値を持続していたが、TLR-4は非妊娠レベルまで低下していた。

(2) 母体血/臍帯血 $\alpha$ -defensin 1-3 濃度比の検討

HIV 陰性あるいは陽性妊婦における臍帯血中 $\alpha$ -defensin 1-3 濃度を図2に示す。HIV 陽性妊婦の妊娠後期母体血中 $\alpha$ -defensin 1-3 濃度は陰性群よりも低い傾向にあった。臍帯血中濃度は陰性妊婦群の範囲内にあり、母体血/臍帯血濃度比は0.09で陰性群(4.0)より低値であった。

#### E) 考察

妊娠中には胎盤壊死物質などの微小な組織片が母体血中に流入し、炎症反応が引き起こされる。これに反応して好中球が活性化され、 $\alpha$ -defensin 1-3 などの抗菌ペプチドが大量に放出される。陣痛が発来すると組織片の量が増加するため、より強度の刺激となって更に好中球の活性化が進む。このことから、妊娠産褥期における血中 $\alpha$ -defensin 1-3 濃度の上昇が説明できる。

血中 $\alpha$ -defensin 1-3 濃度は好中球数と相関せず、産褥1ヶ月においても対照より有意に高値で

あることは前年度報告した。今年度の結果では、産褥3日目のCD11bの発現は陣発群と同程度の高値を持続していたが、TLR-4は非妊娠レベルまで低下していた。これより、血中 $\alpha$ -defensin 1-3 濃度は好中球の活性化を反映するものと考えられた。分娩開始から産褥期という細菌感染の起こりやすい時期に生来免疫系が活性化されることを示唆すると共に、活性化された好中球が間接的に獲得免疫系を賦活してウイルス感染からも母児を保護する可能性がある。現在日本ではHIV陽性妊婦の経膈分娩は推奨されていないが、上記の感染防御機構が正常に作動し、かつ血中ウイルス量が十分に低下していれば、経膈分娩での母児感染成立を防ぎ得る可能性がある。

HIV 陽性妊婦の血中 $\alpha$ -defensin 1-3 濃度は、陰性群とは違って妊娠経過とともに低下する傾向にあった。治療経過より、血中 $\alpha$ -defensin 1-3 濃度がカリニ肺炎の病勢を反映したと考えるのが最も自然であるが、高濃度の $\alpha$ -defensin 1-3 が抗HIV作用を発揮した可能性も否定はできない。また、好中球減少症はAZTの一般的な副作用であり、マウスの好中球分化を抑制したとの報告がある。本症例の臍帯血中 $\alpha$ -defensin 1-3 濃度はHIV陰性群とほぼ同等であった。すなわち母児間血中 $\alpha$ -defensin 1-3 濃度勾配が陰性群よりも緩やかであった。母体血中からの移行分に加え、胎児骨髄ではさかんに $\alpha$ -defensin 1-3 が合成されている。胎児骨髄では、胎盤を介して移行したAZTの作用を受けてもなお豊富な $\alpha$ -defensin 1-3 の供給が推測される。実際、AZT治療中の妊婦より出生した児での好中球減少症の報告はない。できるだけ多くのHIV陽性妊婦検体について血中 $\alpha$ -defensin 1-3 濃度を測定すると共に、AZTのヒト好中球への作用機序と $\alpha$ -defensin 1-3 放出に対する影響、胎児・胎盤系での $\alpha$ -defensin 1-3 発現状況並びにAZTの作用機序につき検討を要する。

#### F) 結論

Alpha-defensin 1-3は直接的な抗HIV作用を有することは確実であり、かつ生来免疫系の重要な構成要素であることから、特に妊娠産褥期の全般

的な感染防御ならびに母児感染成立との関連において興味深い物質である。本研究の結果より、血中ウイルス量が十分低下して生来免疫系が正常に作動していれば、経膈分娩でも母児感染がおこりにくい可能性が示唆された。

G) 健康危険情報

特になし。

図 1

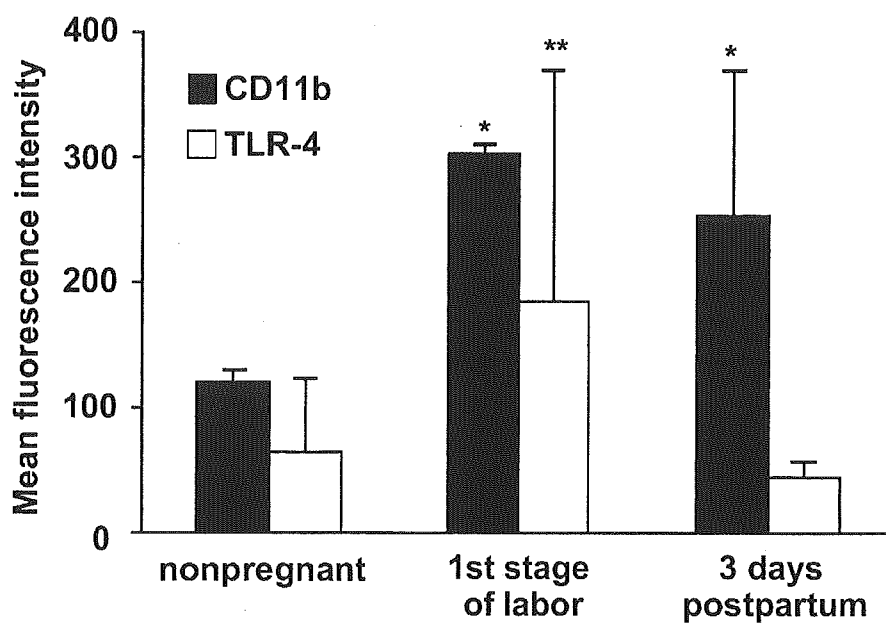
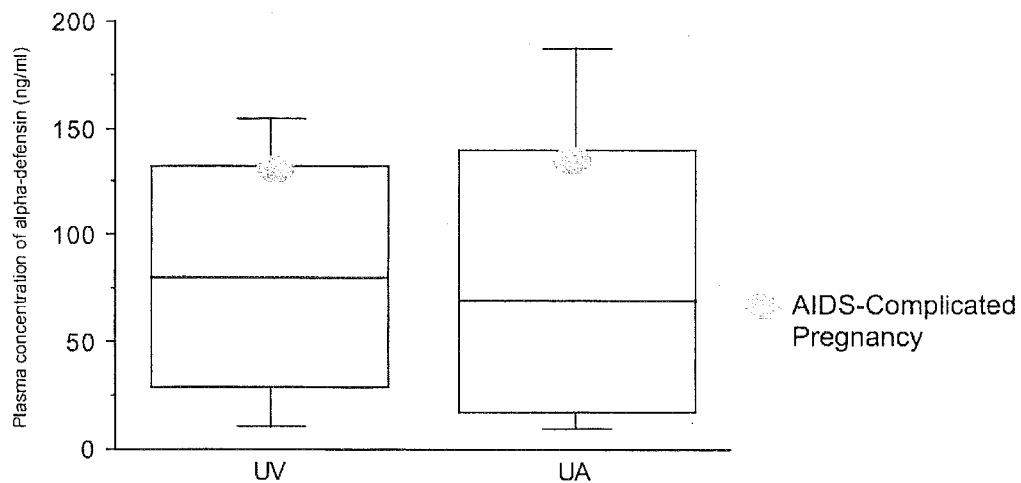


図 2



H) 研究発表

I. 論文発表

- 1) Zhu K, Fukasawa I, Furuno M, Inaba F, Yamazaki T, Kamemori T, Kosaka N, Ota Y, Hayashi M, Maehama T, Inaba N: Inhibitory effects of herbal drugs on the growth of human ovarian cancer cell lines through The induction of apoptosis. *Gynecologic Oncology* 97: 405-409, 2005
- 2) Zhu K, Fukasawa I, Fujinoki M, Furuno M, Inaba F, Yamazaki T, Kamemori T, Kousaka N, Ota Y, Hayashi M, Maehama T, Inaba N : Profiling of proteins associated with cisplatin-resistance in ovarian cancer cells. *Int J Gynecol Cancer* 15:747-754, 2005
- 3) Inaba F, Kawamata, H Teramoto T, Fukasawa I, Inaba N, Fujimori T: PTEN and p53 abnormalities are indicative and predictive factors for endometrial carcinoma. *ONCOLOGY REPORTS* 13:17-24, 2005
- 4) Imamura J, Tomita S, Ono Y, Inaba F, Yamazaki T, Fukasawa I, Inaba N, Fujimori T: Endometrial adenosquamous carcinoma with osteoclast-like giant cells. immunohistochemistry and histogenesis *APMIS* 113:140-144, 2005
- 5) Inaba F, Maekawa I, Inaba N: Giant myomas of the uterus. *Int J of Gyne Obst* 88: 325-326, 2005
- 6) Inaba F, Kawatsu T, Masaoka K, Fukasawa I, Watanabe H, Inaba N : Incarceration of the retroverted gravid uterus: the key to successful treatment. *Arch Gynecol Obstet* 18, :2005
- 7) Yamazaki T, Inaba F, Takada N, Furuno M, Kamemori T, Kosaka N, Ota Y, Fukasawa I, Inaba N: A study of abnormal cervical cytology in pregnant women. *Arch Gynecol Obstet.* Dec 14, 1-4, 2005
- 8) Kato M, Kubota K, Kita J, Shimoda M, Rokkaku K, Inaba N, Fukasawa I, Honma K: Huge Mucinous Cystadenoma of the Pancreas Developing During Pregnancy. *Pancreas* 30:186-188, 2005
- 1) 望月善子 西沢良記 大石曜 大津礼子 三浦俊英 五十嵐吉彦 稲葉憲之: 新規に開発された血中酒石酸抵抗性酸フォスファターゼ骨型アインザイム (TRAP - 5b) 測定キット オステオリンクス「TRAP-5b」による日内及び日間変動と最小有意変化の検討. *医学と薬学* 54:895-902, 2005
- 2) 坂本尚徳、深澤一雄、稲葉憲之: 子宮癌. *獨協医学会誌* 32:189-196, 2005
- 3) 多田和美、根岸正実、保倉 宏、野口崇夫、西川正能、大島教子、星野恵子、田所 望、深澤一雄、渡辺 博、根本猛彦、六角 丘、窪田敬一、稲葉憲之: 帝王切開後早期に絞扼性イレウスを発症した一症例. *栃木県産婦人科医報* 31:152-154, 2005
- 4) 川村江都子、掛田充克、菊地紀明、沼尾利郎、香坂信明、深澤一雄、稲葉憲之: Paclitaxel により誘発された間質性肺炎の一例. *栃木県産婦人科医報* 32:20-22
- 5) 渡辺 博、稲葉憲之: 性腺、胎盤. *臨床検査診断マニュアル改訂第 2 版* 永井書店:P636-654, 2005
- 6) 北澤正文、野口崇夫、星野恵子、中野貴史、河津剛、三ツ矢和弘、深澤一雄、稲葉憲之: 体外受精 (IVF) 及び卵細胞質内精子注入 (ICSI) における形態不良胚のみの移植の検討. *日本受精着床学会誌* 22:91-95, 2005
- 7) 稲葉憲之、大島教子、西川正能、池田綾子、白

- 木和夫:肝炎ウイルス—とくにB、C型肝炎ウイルスの母子感染対策について—。産科と婦人科 8: 980-985, 2005
- 8) 望月善子、稲葉憲之:肥満と高血圧。助産雑誌 59:804-808, 2005
- 9) 白木和夫、大戸 斉、稲葉憲之、藤澤和雄、田尻 仁、神崎 晋、松井 陽、森島恒雄、戸蒔 創、木村昭彦、日野茂男:C型肝炎ウイルスキャリア妊婦とその出生児の管理ならびに指導指針。日本小児科学会雑誌 109: 78-79 2005
- 10) 稲葉憲之:第2回 大学病院は今 北関東の心臓部として県医師会と緊密な連携を図る「北関東のメディカルセンターを目指して」。JAMIC JOURNAL 4月号:24-25 2005
- 11) 稲葉憲之、大島教子、西川正能、池田綾子、白木和夫:肝炎ウイルスと母子感染対策—とくにB、C型肝炎ウイルスについて—。産婦人科治療 90:149-155, 2005
- 12) 稲葉憲之:HCV 母子感染率の上昇傾向を再確認。Medical Tribune 4.28, 2005
- 13) 稲葉憲之:B型肝炎ウイルス母子感染予防の見直し。栃木県医学会会誌 35:81-85, 2005
- 14) 望月善子、大石曜、大津礼子、稲葉憲之:続発性無月経を有する思春期女性の骨量管理。第15回栃木県骨カルシウム代謝研究会誌 8-9, 2005
- 15) 渡辺 博、西川正能、稲葉憲之:感染症合併妊娠1)ウイルス性肝炎。産科と婦人科 72: 1537-1541
- 16) 渡辺 博、稲葉憲之:診療の基本 医療者間、患者とのコミュニケーション、チーム医療。日本産科婦人科学会専門医制度 研修コーナー 57: 493-497
- 17) 渡辺 博、岡崎友紀、多田和美、田所 望、稲葉憲之:出生前診断における倫理上の問題点1) 出生前診断における遺伝カウンセリングの位置づけ-産婦人科医の立場から-。産科と婦人科 12:1695-1699, 2005
2. 学会発表
- 1) Mochizuki Y, Nishizawa Y, Oishi A, Otsu R, Igarashi Y, Miura T, Inaba N:Day-to-day and diurnal variation of serum tartrate-resistant acid phosphatase type 5b with newly developed TRAP 5b kit and their comparison to other bone resorption markers. 2<sup>nd</sup> Joint Meeting of European Calcified Tissue Society (ETCS) and International Bone and Mineral Society (IBMS) (Geneve) 6. 25-29. 2005
- 2) Okazaki T, Ikeda A, Shouda A, Nishikawa M, Oshima K, Ota Y, Watanabe H, Inaba N: Plasma Concentration of Alpha-Defensin 1-3 in a HIV-Positive Pregnant Woman 7<sup>th</sup> ICAAP (Kobe) 7. 1-5, 2005
- 3) Yamazaki T, Furuno M, Inaba F, Kamemori T, Kosaka N, Sakamoto N, Fukasawa I, Inaba N:Expression in early cervical cancer has a correlation with prognosis. AOCOG2005 (Korea) 10. 1-5, 2005
- 4) 武田信彦、北澤正文、野口崇夫、三ツ矢和弘、稲葉憲之:当院におけるAIHの成績。第131回日本不妊学会関東連合地方部会(東京)2. 5, 2005
- 5) 多田和美、渡辺 博、保倉 宏、池田綾子、岡崎友紀、庄田亜紀子、岡崎隆行、西川正能、三ツ矢和弘、望月善子、田所 望、稲葉憲之:経膈分娩で出産した二分脊椎女性の一例。第61回日産婦栃木地方部会(壬生)2. 20, 2005
- 6) 岡崎友紀、渡辺 博、池田綾子、保倉 宏、岡崎隆行、庄田亜紀子、多田和美、西川正能、田所望、中元隆明、金子 昇、稲葉憲之:Greenfield永久下大静脈フィルター留置後に妊娠出産した

- 一症例. 第 61 回日産婦栃木地方部会(壬生)  
2. 20, 2005
- 7) 武田信彦、保倉 宏、岡崎友紀、多田和美、西川正能、香坂信明、大津礼子、北澤正文、深澤一雄、稲葉憲之:MTX にて治療した子宮頸管妊娠の1例. 第 61 回日産婦栃木地方部会(壬生)  
2. 20, 2005
- 8) 渡辺 博、保倉 宏、岡崎友紀、岡崎隆行、庄田亜紀子、多田和美、西川正能、大島教子  
田所 望、大蔵健義、稲葉憲之:やせた妊婦と喫煙妊婦、出産体重への影響はどちらが大きいか. 第 57 回日本産科婦人科学会総会・学術集会(京都)4. 2-5, 2005
- 9) 多田和美、渡辺 博、保倉 宏、池田綾子、岡崎友紀、庄田亜紀子、岡崎隆行、西川正能  
三ツ矢和弘、望月善子、田所 望、稲葉憲之:経膈分娩で出産した二分脊椎女性の1例.  
第 61 回日産婦栃木地方部会(獨協)2. 20, 2005
- 10) 北澤正文、野口崇夫、三ツ矢和弘、武田信彦、河津 剛、星野恵子、岩崎まり子、正岡 薫  
稲葉憲之:形態不良胚のみの胚移植に終わったIVFおよびICSIの成績. 第 57 回日本産科婦人科学会総会・学術集会(京都)4. 2-5, 2005
- 11) 望月善子、大石 曜、大津礼子、大蔵健義、稲葉憲之:Bisphosphonate 製剤による骨粗鬆症治療時の骨量増加効果と骨代謝マーカーの変動に関する検討. 第 57 回日本産科婦人科学会総会・学術集会(京都)4. 2-5, 2005
- 12) 西川正能、稲葉憲之、大島教子、岡嶋祐子、池田綾子、岡崎友紀、岡崎隆行、庄田亜紀子  
多田和美、田所 望、渡辺 博、高見澤裕吉:B型肝炎(HBV)ウイルス母子感染の“もれ”防止を目指して. 第 57 回日本産科婦人科学会総会・学術集会(京都)4. 2-5, 2005
- 13) 野口崇夫、北澤正文、武田信彦、三ツ矢和弘、河津 剛、星野恵子、渡辺 博、正岡 薫  
稲葉憲之:当院での不妊治療による双胎妊娠の予後. 第 57 回日本産科婦人科学会総会・学術集会(京都)4. 2-5, 2005
- 14) 亀森 哲、深澤一雄、藤ノ木政勝、古野元子、稲葉不知之、山崎龍王、朱 坤、香坂信明、太田順子、大竹英樹、林 雅敏、稲葉憲之:質量分析装置を用いた卵巣がん早期診断法の開発  
第 57 回日本産科婦人科学会総会・学術集会(京都)4. 2-5, 2005
- 15) 大石 曜、大道正英、高橋一広、高橋俊文、阿部亜紀子、川越 淳、大津礼子、望月善子、倉知博久、稲葉憲之:トロキシプロゲステロンはエストロゲンによる一酸化窒素(NO)産生亢進を衰弱させる.  
第 57 回日本産科婦人科学会総会・学術集会(京都)4. 2-5, 2005
- 16) 山崎龍王、深澤一雄、古野元子、稲葉不知之、亀森 哲、香坂信明、坂本尚徳、太田順子、田中光臣、林 雅敏、稲葉憲之:早期子宮癌において p16INK4a の発現はリンパ節転移と相関する. 第 57 回日本産科婦人科学会総会・学術集会(京都)4. 2-5, 2005
- 17) 多田和美、保倉 宏、池田綾子、岡崎友紀、庄田亜紀子、岡崎隆行、西川正能、大島教子  
田所 望、渡辺 博、大蔵健義、稲葉憲之:当院における胎胞突出症例の管理法. 第 57 回日本産科婦人科学会総会・学術集会(京都)4. 2-5, 2005
- 18) 庄田亜紀子、稲葉憲之、大島教子、池田綾子、岡崎隆行、西川正能、保倉 宏、岡崎友紀  
多田和美、田所 望、渡辺 博、高山直秀:わが国における周産期麻疹発症の危機—妊婦麻疹抗体保有率調査結果より— . 第 57 回日本産科婦人科学会総会・学術集会(京都)4. 2-5, 2005
- 19) 岡崎隆行、稲葉憲之、太田順子、池田綾子、庄田亜紀子、大島教子、西川正能、多田和美  
田所 望、岡崎友紀、保倉 宏、渡辺 博:妊娠

- における血中  $\alpha$ -defensin 発現量の推移とその機能について. 第 57 回日本産科婦人科学会総会・学術集会(京都)4. 2-5, 2005
- 20) 岡崎友紀、渡辺 博、保倉 宏、池田綾子、岡崎隆行、庄田亜紀子、多田和美、西川正能、大島教子、田所 望、大蔵健義、稲葉憲之: 品胎妊娠に予防的頸管縫縮術は必要か. 第 57 回日本産科婦人科学会総会・学術集会(京都)4. 2-5, 2005
- 21) 池田綾子、稲葉憲之、西川正能、大島教子、岡嶋祐子、庄田亜紀子、岡崎友紀、岡崎隆行、多田和美、田所 望、渡辺 博、高見澤裕吉: C 型肝炎ウイルス母子感染の臨床的インパクトの再確認—母子感染率、キャリア化児の肝機能キャリア化児の予後を比較して—. 第 57 回日本産科婦人科学会総会・学術集会(京都)4. 2-5, 2005
- 22) 岡崎隆行、池田綾子、庄田亜紀子、西川正能、大島教子、太田順子、渡辺 博、稲葉憲之: 妊娠経過における、抗菌ペプチド  $\alpha$ -defensin1-3 の発現状況の推移について. 第 79 回日本感染症学会総会学術講演会(名古屋)4. 14-15, 2005
- 23) 池田綾子、稲葉憲之、大島教子、西川正能、岡崎隆行、庄田亜紀子、渡辺 博: C 型肝炎ウイルス母子感染の再検討—母子感染率、キャリア化児の肝機能、キャリア化児の予後の比較: 第 79 回日本感染症学会総会学術講演会(名古屋)4. 14-15, 2005
- 24) 庄田亜紀子、稲葉憲之、池田綾子、岡崎隆行、西川正能、高山直秀: 妊婦麻疹抗体価保有率調査より考えられるわが国の周産期麻疹発症危機. 第 79 回日本感染症学会総会学術講演会(名古屋)4. 14-15, 2005
- 25) 西川正能、庄田亜紀子、岡崎隆行、池田綾子、中島大輔、鈴木 宏、長谷衣佐乃、福田 健、渡辺 博、稲葉憲之: AIDS を発症した妊婦から健常児を得た一例. 第 23 回日本産婦人科感染症研究会学術講演会(東京)5. 28, 2005
- 26) 庄田亜紀子、稲葉憲之、大島教子、池田綾子、岡崎隆行、西川正能、保倉 宏、岡崎友紀、多田和美、田所 望、渡辺 博、高山直秀: 当院における妊婦の麻疹抗体価保有率調査結果について. 第 23 回日本産婦人科感染症研究会学術講演会(東京)5. 28, 2005
- 27) 岡崎隆行、池田綾子、庄田亜紀子、西川正能、大島教子、稲葉憲之: 正常妊婦における抗菌ペプチド  $\alpha$ -defensin の推移とその発現意義について. 第 23 回日本産婦人科感染症研究会学術講演会(東京)5. 28, 2005
- 28) 池田綾子、稲葉憲之、西川正能、大島教子、庄田亜紀子、岡崎隆行、渡辺 博: 増加傾向にある C 型肝炎ウイルス母子感染. 第 23 回日本産婦人科感染症研究会学術講演会(東京)5. 28, 2005
- 29) 望月善子、大石曜、大津礼子、稲葉憲之: ビスフォスホネート治療時における骨代謝マーカー測定の有用性について. 第 16 回栃木県骨カルシウム代謝研究会(宇都宮)6. 3. 2005
- 30) 西川正能、庄田亜紀子、岡崎隆行、池田綾子、大島教子、渡辺 博、太田順子、稲葉憲之: 妊娠中に AIDS 発症が確認された妊婦から健常児を得た一例. 第 46 回日本臨床ウイルス学会(福岡)6. 3-4, 2005
- 31) 野口崇夫、北澤正文、武田信彦、三ツ矢和弘、稲葉憲之: 当院における AIH の成績. 第 109 回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会(東京)6. 12, 2005
- 32) 岡崎友紀、保倉 宏、池田綾子、岡崎隆行、庄田亜紀子、多田和美、西川正能、大島教子、田所 望、渡辺 博、稲葉憲之: 十二指腸閉鎖に臍帯潰瘍を伴った 21 trisomy の一症例. 第 109 回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会(東京)6. 12, 2005
- 33) 稲葉不知之、深澤一雄、古野元子、山崎龍王、

- 亀森 哲、香坂信明、太田順子、稲葉憲之：子宮頸内腺癌Ⅲ期症例の生存、再発に関する検討。第 109 回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会(東京)6. 12, 2005
- 34) 太田武雄、渡辺 博、保倉 宏、岡崎友紀、庄田亜紀子、古野元子、岡崎隆行、多田和美、西川正能、田所 望、稲葉憲之：抗 HPA-4抗体保有妊婦の妊娠・出産—予想された同種免疫性新生児血小板減少症を発症しなかった症例。第 109 回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会(東京)6. 12, 2005
- 35) 大石 曜、大道正英、高橋一広、高橋俊文、阿部亜紀子、川越 淳、大津礼子、望月善子、倉知博久、稲葉憲之：メドロキシプロゲステロンによる NO 産生抑制の分子構造。第 78 回日本内分泌学会学術集会(東京)7. 1-3, 2005
- 36) 野口崇夫、渡辺 博、岡崎友紀、岡崎隆行、多田和美、西川正能、大島教子、田所 望、稲葉憲之：体外受精・胚移植による双胎妊娠に対する予防的シロッカー手術の効果。第 41 回日本周産期・新生児医学会(福岡)7.10-12,2005
- 37) 多田和美、太田武雄、池田綾子、岡崎友紀、庄田亜紀子、岡崎隆行、香坂信明、西川正能、田所 望、深澤一雄、渡辺 博、稲葉憲之：子宮頸部円錐切除術後の妊娠に対する影響-LEEP とそれ以外の円錐切除術での比較-。第 41 回日本周産期・新生児医学会(福岡)7.10-12,2005
- 38) 岡崎友紀、渡辺 博、多田和美、西川正能、大島教子、田所 望、新田晃久、鈴木 宏、稲葉憲之：Delayed interval delivery と 24 週以下の多胎分娩症例の比較。第 41 回日本周産期・新生児医学会(福岡)7.10-12,2005
- 39) 北澤正文、深澤一雄、西川正能、大石 曜、岡崎友紀、望月善子、稲葉憲之：偶発的に発見された子宮内膜症合併中皮増殖症 mesothelial hyperplasia の一例。第 45 回日本産婦人科内視鏡学会(宝塚)7. 15-16, 2005
- 40) 香坂信明、古野元子、稲葉不知之、山崎龍王、亀森 哲、朱 坤、太田順子、深澤一雄、稲葉憲之：広汎性子宮全摘出術における Vessel Sealing System 使用の検討。第 38 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(和歌山)7. 21-23, 2005
- 41) 亀森 哲、藤ノ木政勝、古野元子、山崎龍王、稲葉不知之、香坂信明、朱 坤、太田順子、深澤一雄、稲葉憲之：質量分析装置を用いた卵巣癌早期診断法の開発。第 38 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(和歌山)7. 21-23, 2005
- 42) 古野元子、稲葉不知之、山崎龍王、亀森 哲、香坂信明、深澤一雄、稲葉憲之：婦人科悪性腫瘍における PET-CT の有用性についての検討。第 38 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(和歌山)7. 21-23, 2005
- 43) 稲葉不知之、深澤一雄、古野元子、山崎龍王、亀森 哲、香坂信明、太田順子、稲葉憲之：子宮内腺癌Ⅲ期症例の生存、再発に関する検討。第 38 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(和歌山)7. 21-23, 2005
- 44) 山崎龍王、古野元子、稲葉不知之、亀森 哲、香坂信明、朱 坤、坂本尚徳、太田順子、深澤一雄、稲葉憲之：早期子宮癌において P16 の発現は、リンパ節転移や再発と相関する。第 38 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(和歌山)7. 21-23, 2005
- 45) 北澤正文、野口崇夫、三ツ矢和弘、武田信彦、稲葉憲之：過去 5 年間の AIH の成績と不成功例のその後。第 23 回日本受精着床学会総会・学術講演会(大阪)8. 4-5, 2005
- 46) 野口崇夫、北澤正文、河津 剛、星野恵子、三ツ矢和弘、渡辺 博、稲葉憲之：体外受精・胚移植による双胎妊娠の予後。第 23 回日本受精着床学会総会・学術講演会(大阪)8. 4-5, 2005

- 47) 大石 曜、望月善子、大津礼子、稲葉憲之: 続発性無月経を呈した思春期女性の骨量に対する検討. 第 24 回日本思春期学会総会学術集会(埼玉)8. 21-22, 2005
- 48) 望月善子、大石曜、大津礼子、稲葉憲之: 妊娠にいたった神経性食思不振症(制限型)の1例. 第 34 回日本女性心身医学会学術集会(岐阜)8. 28. 2005
- 49) 北澤正文、岡崎隆行、野口崇夫、三ツ矢和弘、香坂信明、深澤一雄、稲葉憲之: 当科における腹腔鏡補助下子宮筋腫核出術の経験. 第 62 回日産婦栃木地方部会(宇都宮)9. 4, 2005
- 50) 太田武雄、庄田亜紀子、池田綾子、岡崎友紀、岡崎隆行、多田和美、西川正能、田所 望、渡辺 博、稲葉憲之: 塩酸リトリン使用で高度の顆粒球減少症をおこした品胎の一例. 第 62 回日産婦栃木地方部会(宇都宮)9. 4, 2005
- 51) 大津礼子 望月善子 大石 曜 稲葉憲之: 更年期障害に対する三大婦人漢方薬以外の有効処方例の検討. 第 25 回日本婦人科漢方研究会(東京)9. 11, 2005
- 52) 望月善子 大石曜 大津礼子 三浦俊英 大橋建也 稲葉憲之: 新規免疫測定法による血清 TRAP5b 活性の生物学的変動と最小有意変化に関する検討. 第 7 回日本骨粗鬆症学会(大阪)10. 12-15. 2005
- 53) 大石 曜、望月善子、大津礼子、稲葉憲之: ビスフォスホネート製剤の服薬コンプライアンスに関する検討. 第 7 回日本骨粗鬆症学会(大阪)10. 13-15, 2005
- 54) 多田和美、渡辺 博、太田武雄、池田綾子、岡崎友紀、庄田亜紀子、岡崎隆行、西川正能、田所 望、稲葉憲之: 当科で経験した 18 トリソミー 3 4 症例の検討. 第 110 回日産婦関東連合地方部会(松本)10. 15-16, 2005
- 55) 古野元子、深澤一雄、稲葉不知之、山崎龍王、亀森 哲、香坂信明、坂本尚徳、太田順子、稲葉憲之: Intravenous leiomyomatosis の 1 例 1. 第 110 回日産婦関東連合地方部会(松本)10. 15-16, 2005
- 56) 北澤正文、岡崎隆行、野口崇夫、三ツ矢和弘、香坂信明、深澤一雄、稲葉憲之: 当科における腹腔鏡補助下子宮筋腫核出術の経験. 第 9 回栃木県内視鏡外科研究会(宇都宮)10. 22, 2005
- 57) 望月善子 大石曜 大津礼子 大蔵健義 稲葉憲之: ビスフォスホネート療法における骨代謝マーカー測定の有用性. 第 20 回日本更年期医学会学術集会(大宮)11. 12-13, 2005
- 58) 大石 曜、望月善子、大津礼子、稲葉憲之: ビスフォスホネート治療時における骨代謝マーカー測定の有用性について. 第 16 回婦人科骨粗鬆症研究会学術集会(東京)11. 5, 2005
- 59) 大石 曜、望月善子、大津礼子、大蔵健義、稲葉憲之: 個別的治療により奏功した心身症の 3 症例. 第 20 回日本更年期学会学術集会(埼玉)11. 12-13, 2005
- 60) 野口崇夫、藤ノ木政勝、三ツ矢和弘、星野恵子、北澤正文、稲葉憲之: ハムスター精子の超活性化におけるプロゲステロンの影響. 第 50 回日本不妊学会総会(熊本)11. 16-19, 2005
- 61) 西川正能、渡辺 博、庄田亜紀子、岡崎隆行、池田綾子、中島大輔、鈴木 宏、有阪 治、江口光興、長谷衣佐乃、福田 健、稲葉憲之: 当院で経験した HIV 感染妊婦. 第 2 回栃木県性感感染症研究会(宇都宮)11. 29, 2005
- 62) 岡崎隆行、池田綾子、庄田亜紀子、西川正能、大島教子、太田順子、稲葉憲之: AIDS 妊婦における血中  $\alpha$ -Defensin1-3 濃度. 第 19 回日本エイズ学会(熊本)12. 1-3, 2005
- 63) 大島教子、Asthana D、岡崎隆行、太田順子、稲葉憲之: 妊婦における頸管粘膜中 HIV ウイルス量測定の意義. 第 19 回日本エイズ学会



(熊本)12.1-3, 2005

- 64) 多田和美、渡辺 博、太田武雄、池田綾子、岡崎友紀、庄田亜紀子、岡崎隆行、西川正能、田所 望、稲葉憲之:当科における夫立会い帝王切開の現状. 第 33 回獨協医学会(獨協) 12.3, 2005
- 65) 野口崇夫、北澤正文、久野達也、根岸正実、三ツ矢和弘、稲葉憲之:当院における生殖補助医療技術(ART)の成績. 第 33 回獨協医学会(獨協)12.3, 2005
- 66) 稲葉憲之:B 型肝炎ウイルスの母子感染予防法の再検討  
第 57 回日本産科婦人科学会総会 モーニングセミナー 4.5(京都)
- 67) 稲葉憲之:B 型肝炎ウイルス母子感染予防法の見直しー対策漏れゼロを目指してー. 第 79 回日本感染症学会 シンポジウム1 4.14(名古屋)
- 68) 稲葉憲之:B 型肝炎ウイルス母子感染対策の再検討. 第 23 回日本産婦人科感染症研究会 5.28(主婦会館プラザエフ)
- 69) 稲葉憲之:B 型肝炎ウイルス母子感染予防法の見直しー対策漏れゼロを目指してー  
第 3 回東葛産婦人科懇話会 7.8(千葉)

- 70) 稲葉憲之:「B 型肝炎ウイルス母子感染対策「Inaba 方式」ー20 数年に及ぶ厚生労働省との闘いー」 第73回ハクエイ研究会 9.30(宇都宮)
- 71) 稲葉憲之:HCV 母子感染率の上昇傾向を再確認. Medical Tribune 4.28
- 72) 西川正能:妊娠初期に風疹に罹患した可能性のある妊婦への対応、妊婦の風疹抗体価の評価、先天性風疹症候群の胎児診断:第 33 回周産期医療研修会(獨協)6.16
- 新聞報道
- 1) 2005 年 3 月 25 日 教育医事新聞「B 型肝炎ウイルスの母子感染ー新たな予防提唱ー。」
  - 2) 2005 年 4 月 22 日 中日新聞「B 型肝炎の母子感染」.
  - 3) 2005 年 教育医事新聞 B 型肝炎ウイルスの母子感染ー予防法の見直しー

I. 知的財産権の出題・登録状況 (予定を含む)  
なし

研究成果の刊行に関する一覧表

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻・号	ページ	出版年
Panichi PB Maggioni A Hacker N, Landoni F Ackermann S Campagnutta E (解説: <u>喜多恒和</u> )	Systematic aortic and pelvic lymphadenectomy versus resection of bulky nodes only in optimally debulked advanced ovarian cancer: a randomized clinical trial	JCLS	3	91-93	2005
Kikuchi Y, <u>Kita T</u> <u>Takano M</u> , <u>Kudoh K</u> Yamamoto K	Treatment options in the management of ovarian cancer	Pharmacother	6	743-754	2005
Khew V C, Leah A Fujii K, <u>Kudoh K</u> <u>Kita T</u> , Kikuchi Y Zachariahe S Yick F W, Yong L Wei CS	Application of Expression Genomics for Predicting Treatment Response in Cancer	Ann. N. Y. Acad. Sci	1058	186-195	2005
Xin K-Q, Jounai N Someya K, Honma K Mizuguchi H Naganawa S <u>Kitamura K</u> <u>Hayakawa S</u> Saha S, Takeshita F Okuda, Honda M Klinman DM, Okuda K	Prime-boost vaccination with plasmid DNA and a chimeric adenovirus type 5 vector with type 35 fiber induces protective immunity against HIV	Gene Therapy		1-9	2005
Miura N, Yamamoto M Fukutake M, Ohtake N Iizuka S, Ishige A Sasaki H, Fukuda K Yamamoto T <u>Hayakawa S</u>	Anti-CD3 induces bi-phasic apoptosis in murine intestinal epithelial cells: possible involvement of the Fas/Fas ligand system in different T cell compartments	Int. Immunology	17	513-552	2005
<u>Sakumoto K</u> , Nagai Y Inamine M, Kanazawa K	Primary omental gestational choriocarcinoma	Gynecologic Oncology	97	243-245	2005

	ascertained by deoxyribonucleic acid polymorphism analysis				
<u>Matsuda H</u> Sakaguchi K Shibasaki T Takahashi H Kawakami Y Furuya K, Kikuchi Y	Cerebral edema on MRI in severe preeclamptic women developing eclampsia	J. Perinat. Med.	33	199-205	2005
<u>Matsuda H</u> Kawakami Y Furuya K, Kikuchi Y	Intrauterine therapy for a cytomegalovirus-Infected symptomatic fetus	BJOG	111	756-757	2005
<u>Matsuda H</u> Sakaguchi K Shibasaki T Takahashi H Kawakami Y Furuya K	Intrauterine therapy for parvovirus B19 infected symptomatic fetus using B19 IgG-rich high gammaglobulin	J. Perinat. Med	33	561-563	2005
Ami Y, Izumi Y Matsuo K, Someya K Kanekiyo M Horibata S <u>Yoshino N</u> , Sakai K Shinohara K Matsumoto S Yamada T, Yamazaki S Yamamoto N, Honda M	Priming-Boosting Vaccination with Recombinant Mycobacterium bovis Bacillus Calmette-Guerin And a Nonreplicating Caccinia Virus Recombinant Leads to Long-Lasting and Effective Immunity	J. Virology	79	12871 - 12879	2005
GInkel FW, Jackson RJ <u>Yoshino N</u> Hagiwara Y Metsger DJ Connell TD, Vu HL Martin M Fujihashi K McGhee R	Enterotoxin-Based Mucosal Adjuvants Alter Antigen Trafficking and Induce Inflammatory Responses in the Nasal Tract	Infection and Immunity	73	6892-6902	2005
<u>Hayakawa S</u>	No cancer in cancers: Evolutionary trade-off between	Medical Hypotheses	66	888-897	2006

	successful viviparity and tumor escape from the adaptive immune system				
<u>Hayakawa S</u>	Rembrandt' s Bathsheba, possible lactation mastitis following unsuccessful pregnancy	Medical Hypotheses	in press		2006
Saito S, Takeda Y Sakai M Nakabayashi M <u>Hayakawa S</u>	The incidence of pre-eclampsia among couples consisting of Japanese women and Caucasian men	J Rep. Immu.	in press		2006
Miwa N, <u>Hayakawa S</u> Miyazaki S, Myojo S Sasaki Y, Sakai M Takikawa O, Saito S	IDO expression on decidual and peripheral blood dendritic cells and monocytes/macrophages after treatment with CTLA-4 or interferon- $\gamma$ increase in normal pregnancy but decrease in spontaneous abortion	Molecular Human Reproduction	in press		2006
Inaba F, Kawamata H TeramotoT, <u>Fukasawa I</u> , Inaba N Fujimori T	PTEN and p53 abnormalities are indicative and predictive factors for endometrial carcinoma	Oncology Reports	13	17-24	2005
Zhu K, <u>Fukasawa I</u> Furuno M, Inaba F Yamazaki T, Kamemori T, Kosaka N, <u>Ota Y</u> Hayashi M, Maehama T <u>Inaba N</u>	Inhibitory effects of herbal drugs on the growth of human ovarian cancer cell lines through the induction of apoptosis	Gynecologic Oncology	97	405-409	2005
<u>松田秀雄</u> 川上裕一 古谷健一 菊地義公	サイトメガロウイルス (CMT)感染胎児に対する胎内治療と治療効果判定	産婦人科の実際	53	445-451	2004
<u>谷口晴紀</u>	免疫低下 (HIV感染症) と食事	周産期医学	35	166-169	2005
<u>小早川あかり</u> 長坂康子 浜田亜衣子 榎谷法生	診断に苦慮し治療抵抗性であったHIV合併明細胞腺	日産婦東京地方部会会誌	54	434-438	2005